

第6章 当面のすすめ方

1) 推進体制

都市観光振興プランの策定にあたっては、平成14年度に実施した「都市型観光顧客満足度調査」や首都圏住民を対象とする「都市イメージ調査」などの各種調査の報告書を基に、平成15年度に学識経験者や観光事業者を委員とする「宇都宮都市観光研究会」により討議を重ね、提言をいただきながら原案を作成したものである。

本市観光の推進にあたっては、観光事業の当事者である観光施設や宿泊、交通事業者などの直接的な事業者ばかりではなく、土産品や飲食店、一人ひとりの市民の対応や受入体制を構築していく必要がある。

こうしたことから本振興プランを基礎として、官民が一体となった推進方策を検討するとともに、更なる観光関連事業者との意見交換や市民への意識啓発を通じて人材育成を積極的に進めていくことにより、具体的に事業化を進めていくことが重要である。

他方、振興プランの実施効果の測定と本市経済に及ぼす観光の影響等を定点測定するための調査手法を早急に研究し、市民と一体となった目標を設定し、結果をフィードバックする仕組みを形成していくことが重要である。

○宇都宮都市観光動態調査の実施による効果測定

本市における観光入込客数の集計方法は、主に施設入場者をカウントしているものであり、餃子をはじめとした飲食やまち歩き等の都市観光を目的とした観光客は集計されていないのが現状である。

このため、本市の入込客数の実態や観光消費額、認知度等を把握し、経済波及効果等を推計することを基本目的とし、インターネットを利用した新たな手法の「都市観光実態調査」を実施する。

調査の実施方法

- ・インターネットを利用して実施する
- ・宇都宮都市観光の誘致圏を規定し、そのエリアに居住する全年齢層の男女を対象とする

< 例 >	宇都宮市内	宇都宮市内
1次誘致圏		栃木県内(宇都宮市以外)
2次誘致圏		茨城県北部、茨城県南西部、埼玉県東部
3次誘致圏		福島県、群馬県、茨城県南東部、埼玉県の一部、 東京・千葉・神奈川の一部

市町村単位で決定する

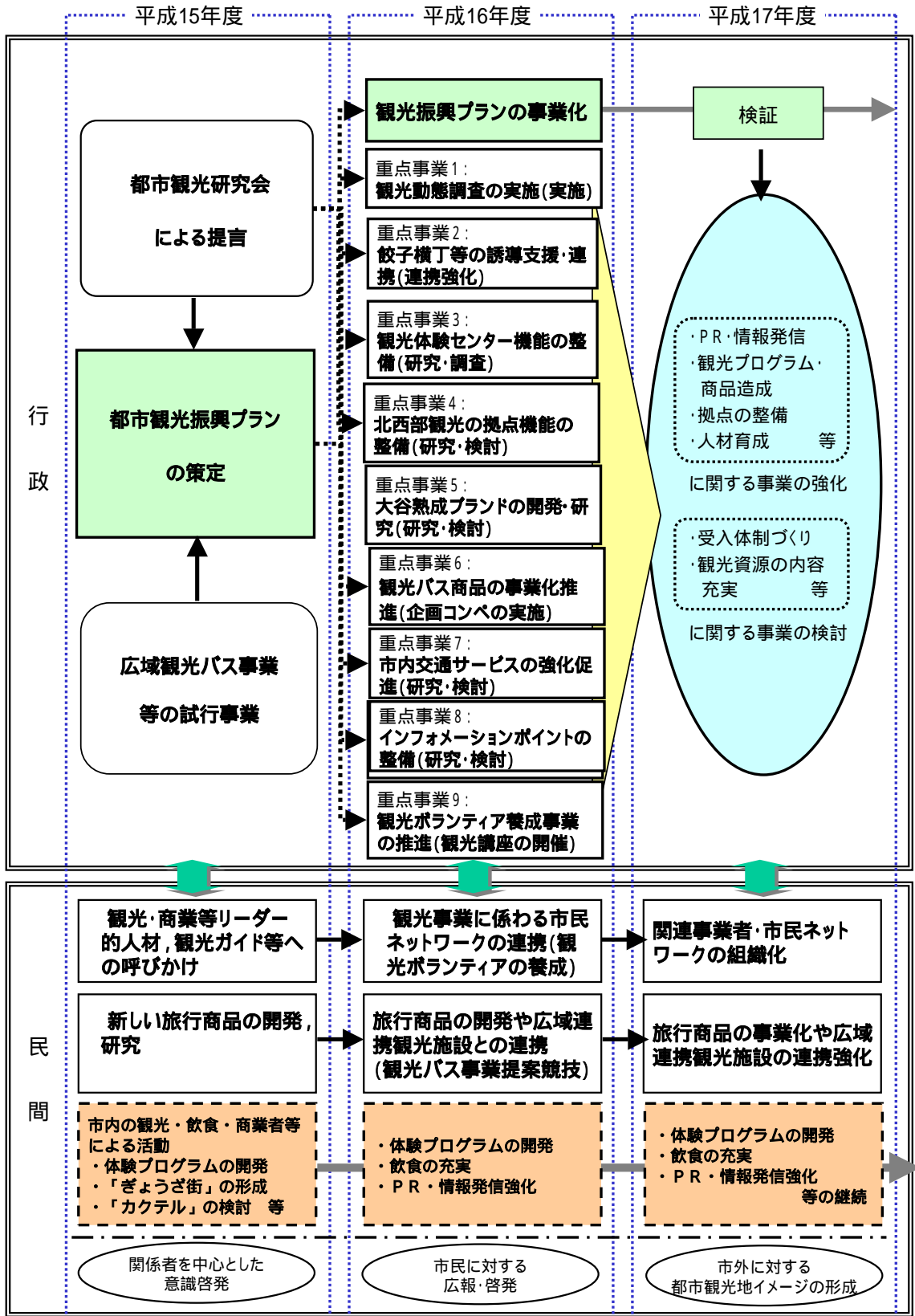
年間来街者数及び観光消費額の算出

アンケート結果を活用し、年間の来街者発生数及び、年間観光消費額を推計する。

人口	来街者発生比率	年間来街者発生数	の来平平均年間性来のある街を回る数人	年間来街延べ回数	単1回のあたり平均観光消費額	年間観光消費額
(万人)	(%)	(万人)	(回)	(万人回)	(円)	(億円)
(A)	(B)	(C) = (A) × (B)	(D)	(E) = (C) × (D)	(F)	(G) = (E) × (F)
宇都宮市	44	-	-	-	-	115.6
1次誘致圏	100	80.0	80	8.8	704.8	105.7
2次誘致圏	350	50.0	175	1.3	235.4	117.7
3次誘致圏	2,000	10.0	200	0.1	22.0	22.0
						361.0

数値はイメージです

2) 当面の事業スケジュール



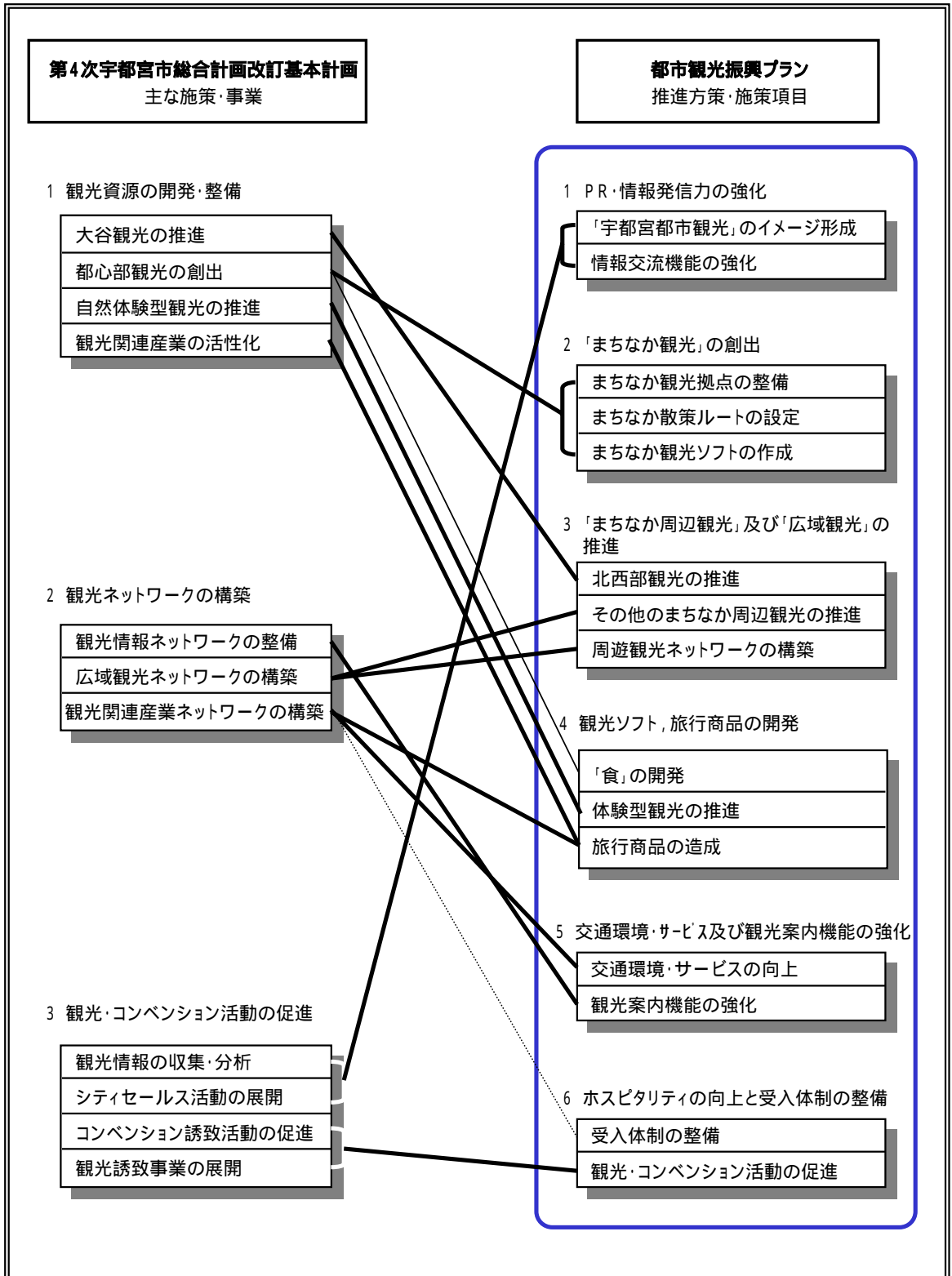
3) 施策事業の実施主体及びスケジュール

事業名	実施主体			実施時期		
	市	観コ協	民間	短期	中期	長期
1. PR・情報発信力の強化						
1-1 「宇都宮都市観光」のイメージ形成						
観光動態調査の実施						
「体験型の都市観光地・うつのみや」のイメージ形成				—		
宇都宮くちコミ特派員の活用				—		
ターゲットエリアへのPR活動の推進				—		
ナムコ・ナンジャタウンを拠点とする情報発信				—		
1-2 情報交流機能の強化						
観光情報発信機能の強化		○	○			
情報収集、蓄積能力の強化	○	○		—		
観光情報データベースの構築	○					
2. 「まちなか観光」の創出						
2-1 まちなか観光拠点の整備						
餃子横丁等の誘導・支援、連携		○		—		
観光体験センター機能の整備		○				
宇都宮城址整備にあわせた歴史軸の整備						
カクテル・ジャズ資源の有効活用		○				
朝市、農産物のアウトレットストア等の出店誘導				—		
2-2 まちなか散策ルートの設定						
魅せる商店、ファサードによる楽しい散策ルートの演出	○					
「食」資源の活用		○				
歴史・文化、芸術資源の活用		○				
エンターテインメントやショッピングイベントの活用	○	○	○	—		
ナイツポットルートの設定						
2-3 まちなか観光ソフトの開発						
餃子教室・カクテル講座等の体験教室の開設						
歴史体験ソフトの開発			○	—		
二荒の杜の観光活用				—		
音楽を活かしたソフトの開発				—		
都市河川の観光活用				—		
まちのストーリーづくり						
3. 「まちなか周辺観光」及び「広域観光」の推進						
3-1 北西部観光の推進						
北西部観光の拠点機能の整備				—		
大谷観光の推進				—		
県立自然公園の有効活用	○			—		
篠井・富屋エリアの観光振興	○			—		
3-2 その他のまちなか周辺観光の推進						
東部地区の観光振興				—		
南部地区の観光振興	○			—		
中央北部地区の観光振興				—		
3-3 周遊観光ネットワークの構築						
周遊観光モデルコースの作成						
市町合併を視野に入れた広域観光の推進				—		
共同イベントの開催						—

事業名	実施主体			実施時期		
	市	観協	民間	短期	中期	長期
4. 観光ソフト、旅行商品の開発						
4-1 「食」の開発						
大谷熟成ブランドの開発・活用					—	
名物料理・郷土料理の開発		○	○		—	—
特色ある飲食店舗の誘導						
3-2 体験型観光の推進						
農業体験の観光活用						
スポーツ体験プログラムの充実強化					—	
産業体験の推進					—	
歴史・文化体験の推進					—	
体験学習メニューの作成						—
季節感を活かした自然体験の推進					—	
4-2 旅行商品の造成						
観光バス商品の事業化推進					—	
宇都宮城址整備にあわせた観光ソフトの開発					—	
妖精資料活用事業と連携した観光ソフトの開発						—
文化・エンターテインメント事業を活用した旅行商品の造成						—
地産地消をテーマにした旅行商品の造成		○	○		—	
旅行商品造成のための実証実験の試行					—	
観光関連事業者への効果的な情報提供と連携強化	○					
5. 交通環境・サービス及び観光案内の強化						
5-1 交通環境・サービスの向上						
市内交通サービスの強化促進					—	—
まちなかの大型バス用駐車場の確保					—	
駐車場料金体系の改善						—
高速バス等多様なアクセス体系の促進					—	
5-2 観光案内機能の強化						
インフォメーションポイントの整備					—	—
誘導案内・サインの充実強化					—	
観光案内所機能の強化						—
携帯電話を利用した観光案内システムの検討						—
6. ホスピタリティの向上と受入体制の整備						
6-1 受入体制の整備						
観光ボランティア養成事業の推進		○			—	
観光ガイドの事業化検討					—	
歓迎感のあるまちなかの演出					—	
観光関連事業者のホスピタリティの醸成						
都市観光講座の開設		○			—	
6-2 観光・コンベンション活動の促進						
コンベンション開催に係る支援体制の充実					—	
コンベンション誘致活動の強化						
特色あるコンベンション施設整備の検討	○				—	
特色ある宿泊機能の研究						—
観光誘致事業の強化	○				—	
フィルムコミッションの検討						—
国際コンベンションシティの推進					—	—
観光施設、ルートのバリアフリー対応					—	

凡例 短期：1～3年以内に事業化を目指す事業
中期：3～6年以内に事業化を目指す事業
長期：6～10年以内に事業化を目指す事業
：重点事業

参考 「第4次宇都宮市総合計画改訂基本計画」との相関性



観光計画策定委員会設置要領

1 趣 旨

「都市観光振興プラン」及び「大谷観光推進基本計画」の策定のため、「都市観光研究会」及び「大谷観光推進基本計画策定懇談会」への情報提供、並びに提言事項の庁内調整を図るとともに、各観光計画案の検討を行う。

2 検討事項

(1) 都市観光振興プランの策定

- ・ 都市観光の振興に係る課題及び推進方策の検討
- ・ 都市観光に係る事業プランの検討

(2) 大谷観光推進基本計画の策定

- ・ 大谷観光の推進に係る課題及び推進方策の検討
- ・ 大谷観光に係る事業プランの検討

3 構 成

(1) 観光計画策定委員会 [別表1参照]

- ・ 委員長 商工部長
- ・ 副委員長 商工部次長
- ・ 委員 観光計画策定関係部課長

(2) 観光計画策定委員会担当課長会議 [別表2参照]

- ・ 委員長 商工部次長
- ・ 副委員長 商業観光課長
- ・ 担当課長 観光計画策定関係課長

(3) 日 程

平成 15 年 11 月から平成 16 年 3 月

(4) 座 長

各委員長が進行する。

4 スケジュール

日 程	策定委員会	内 容
11 / 27 10:30 ~	第 1 回 担当課長会議	・ 都市観光プラン及び大谷観光計画の策定スケジュール ・ 都市観光プランの概要報告，内容検討 ・ 大谷観光振興の考え方，計画策定方針の説明，意見交換
2 / 6 13:00 ~	第 2 回 担当課長会議	・ 都市観光研究会検討経過の報告，振興プラン素案の検討 ・ 大谷観光の現状と課題，大谷観光の方向性について ・ 関係部局の関連課題の抽出，官民協働の考え方 など
2 / 23 10:00 ~	第 1 回 策定委員会	・ 都市観光振興プラン素案の検討 ・ 大谷観光推進基本計画の骨子案の検討 など
3 / 18 10:00 ~	第 2 回 策定委員会	・ 各観光計画への提言内容の報告 ・ 各観光計画素案の検討 ・ 各観光計画推進にあたっての考え方 など

[別表 1] 観光計画策定委員会委員名簿 : 委員長 : 副委員長

NO	氏名	役職名
1	柳田 輝男	商工部長
2	小平 良長	総合政策部長
3	森 賢一郎	環境部長
4	永岡 重信	農務部長
5	木村 保弘	都市開発部長
6	伊藤 文雄	教育次長
7	沼尾 博行	商工部次長
8	桜井 敬朔	商業観光課長
9	横松 薫	政策審議室長
10	矢古宇哲男	都心部活性化推進室長
11	石川啓太郎	工業課長
12	大岡 幸雄	農政課長
13	岩本 享一	廃棄物対策課長
14	加藤 岩男	農林振興課長
15	福田 幹雄	クリーンセンター所長
16	栗田 健一	都市計画課長
17	桜井 英男	都市再開発課長
18	窪井 秀治	建築指導課長
19	寺内 栄	公園緑地課長
20	北條 和久	文化課長
21	数度 幸一	スポーツ振興課長
22	浦野 孝夫	商業観光課主幹（観光コンベンション協会事務局長）

[別表 2] 観光計画策定委員会担当課長会議名簿 : 委員長 : 副委員長

NO	氏名	役職名
1	沼尾 博行	商工部次長
2	桜井 敬朔	商業観光課長
3	横松 薫	政策審議室長
4	矢古宇哲男	都心部活性化推進室長
5	石川啓太郎	工業課長
6	岩本 享一	廃棄物対策課長
7	福田 幹雄	クリーンセンター所長
8	大岡 幸雄	農政課長
9	加藤 岩男	農林振興課長
10	栗田 健一	都市計画課長
11	桜井 英男	都市再開発課長
12	窪井 秀治	建築指導課長
13	寺内 栄	公園緑地課長
14	北條 和久	文化課長
15	数度 幸一	スポーツ振興課長
16	浦野 孝夫	商業観光課主幹（観光コンベンション協会事務局長）

宇都宮市都市観光研究会委員

役割	氏名	備考	区分
会長	森本章倫	宇都宮大学工学部助教授 (都市計画, 交通計画)	学識経験者 (第1号)
副会長	笠原正人	(有)アサヒタクシー代表取締役	観光事業者 (第2号)
	結城史隆	白鷗大学経営学部教授 (文化人類学, 比較文化論)	学識経験者 (第1号)
	大塚恭子	(株)ジェイティービー宇都宮支店旅行課長	観光事業者 (第2号)
	高橋信夫	日野町商店街振興組合理事 宇都宮中心商店街活性化委員会事務局長	知識文化人 (第3号)

検討経過

日時	会議	内容
H15.12.2	第1回研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本市観光の現状と分析 ・ 重点施策の選定方針について
H16.1.8	第2回研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策事業の検討 ・ 都市観光の特色化について
H16.2.26	第3回研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点事業の検討 ・ 提言書案の検討

事務局

所属	役職等	氏名	備考
商工部商業観光課	課長	桜井敬朔	
〃	課長補佐	和気恒光	
〃	観光係長	斉藤由美子	
〃	総括主査	松本邦夫	

「宇都宮市都市観光振興プラン」の概要

6 施策事業

推進方策	施策項目	重点事業	想定事業
I PR・情報発信力の強化	「宇都宮都市観光」のイメージ形成 ・情報交流機能の強化	1 観光動態調査の実施	・観光マーケティング機能の強化 ・情報収集、発信機能の強化 ・くちコミ特派員の活用 ほか
II 「まちなか観光」の創出	・まちなか観光拠点の整備 ・その他のまちなか散策ルートの設定 ・まちなか観光ソフトの開発	2 餃子横丁等の誘導支援・連携 3 観光体験センター機能の整備	・魅せる商店による楽しい散策路、歴史軸 ・餃子、カクテル、ジャズ資源の有効活用 ・都市、河川の観光活用 ほか
III 「まちなか周辺観光」及び「広域観光」の推進	・北西部観光の推進 ・その他のまちなか周辺観光の推進 ・周辺観光ネットワークの構築	4 北西部観光の拠点機能の整備	・東部、南部、中央北部地区等の観光振興 ・市町合併を視野に入れた広域観光の推進 ・周辺観光モデルコースの作成 ほか
IV 観光ソフト、旅行商品の開発	・「食」の開発 ・体験型観光の推進 ・旅行商品の造成	5 大谷熟成ブランドの開発・活用 6 観光バス商品の事業化推進	・名物料理、郷土料理の開発 ・宇都宮城址にあわせ観光ソフトの開発 ・産業体験、農業体験の観光活用 ほか
V 交通環境・サービス及び観光案内機能の強化	・交通環境・サービスの向上 ・観光案内機能の強化	7 市内交通サービスの強化促進 8 インフォメーションポイントの整備	・まちなかの大型バス用駐車場の確保 ・誘導案内・サインの充実、強化 ・観光案内所機能の充実、強化 ほか
VI ホスピタリティの向上と受入体制の整備	・受入体制の整備 ・観光・コンベンション活動の促進	9 観光ボランティア養成事業の推進	・観光関連事業者のホスピタリティの醸成 ・特色あるコンベンション施設の整備促進 ・観光誘致事業の充実、強化

1 都市観光の意義

- 都市観光の定義
「観光や交流を目的に来訪する人々が、様々な効果をもたらすこととを認識し魅力ある都市づくりにつなげていくこと」
(「都市観光による地域活性化方策に関する調査報告書」国土交通省より)
- 期待される効果
 - ・経済的効果 ……来訪者による消費支出 (H15.3 発行)
 - ・社会的効果 ……イメージアップ、賑わいの創出
 - ・文化的効果 ……来訪者と住民の交流、芸術・異文化の体験

2 観光動向及び本市の評価

- 観光動向
 - ・個人旅行 ……全旅行の9割が個人旅行(団体旅行の減少)
 - ・目的志向 ……自然、歴史、文化、グルメなど目的志向の増加
- 本市の評価
 - ア 首都圏住民の本市のイメージ (H14.11 実施イメージ調査から)
⇒「自然が豊か」「おもしろいのが豊富」「庶民的」など
 - イ 満足度の高い施設 (H14.8 実施観光CS調査から)
⇒「商業施設」「飲食施設」「ハイキングコース」など

3 本市観光の特性

都市と豊か自然の共存

北関東最大の都市と、30分圏内にある自然環境とのバランスの妙

ユニークな異文化体験

餃子に大谷など、市民の向かい日常に観光客の異文化体験がある

圧倒的餃子の知名度

首都圏住民の知名度85.3%。本市のイメージのベースは「餃子」

4 課題抽出

観光客の行動

- 1 動機づけ＝本市の印象度
 - ・知名度
 - ・都市のイメージ
 - ・観光資源の魅力
- 2 決定づけ＝都市間競争力
 - ・独自の観光スタイル
 - ・観光商品、立地の魅力
 - ・情報取得の容易さ
- 3 満足度＝ホスピタリティ度
 - ・利便性
 - ・快適度
 - ・思い出深い体験

課題

- ・特性を活かしたイメージアップ
- ・ターゲットに合わせたPR手法
- ・「餃子」の知名度の有効活用
- ・消費者志向、観光動向の把握
- ・習熟性の高い観光ソフトの開発
- ・利便性の高いアクセスの促進
- ・広域連携による拠点機能の強化
- ・観光情報の発信力の充実、強化
- ・観光案内、誘導機能の充実、強化
- ・市内移動手段の利便性の向上
- ・宿泊、土産機能の強化
- ・市民ホスピタリティの向上
- ・日常的な楽しさの演出

5 都市観光振興の基本方針

○コンセプト

「テーマ型都市観光の創出」

「個人がテーマや目的を持って行う体験型の観光をターゲットにしたPR手法」
サポーターの都市観光施策を事業化する」
・行動目的…趣味、グルメ、生活文化、芸術、体験等
・行動頻度…リピート(カジュアルな反復性)
・滞在形態…立寄り、日帰り、短期宿泊(1～2日)

○計画エリアの区分

- ① まちなか観光 ……中心市街地を主とする本庁管内
- ② まちなか周辺観光 ……上記エリアを除く市内郊外部
- ③ 広域観光 ……県内市外(日光、益子など)

○ターゲット

- ① 首都圏住民(半径110km圏内)
- ② 県内周遊客(日光、鬼怒川、益子、那須、馬頭など)
- ③ 地元圏住民(県内及び茨城県住民)

7 事業の進め方

○事業スケジュール

事業の目的、重要性、熟度から優先順位付け
⇒短期(～3y)、中期(～6y)、長期(～10y)

○事業主体

行政と民間の役割分担と協働のあり方
⇒行政、観光コンベンション協会、民間

○当面の進め方

短期区分における事業推進の考え方を検討

※別冊資料

- ・宇都宮市に対するイメージ調査結果データ
- ・都市型観光顧客満足度調査結果データなど

宇都宮市都市観光振興プラン

- 平成16年3月 -

作成： 宇都宮市商工部商業観光課
栃木県宇都宮市旭1丁目1番5号
TEL 028-632-2437 FAX 028-632-5420